

經濟論叢

第156卷 第4号

木崎喜代治教授記念號

献 辞	菊池光造	
公衆衛生の誕生	阪上孝	1
フランス啓蒙期の「陪審制」論	石井三記	28
根源への無限の階梯	長尾伸一	56
Social Democracy and Sustainable Development	Nobutaka NAGAOKA	83
ミシェル・フーコーと啓蒙の問い	水嶋一憲	102
アリストテレスの經濟思想	森岡邦泰	123
社会の学問の革新	田中秀夫	141

木崎喜代治 教授 略歴・著作目録

平成7年10月

京都大學經濟學會

献 辞

木崎喜代治先生は、本年3月31日をもって本学を退官されました。かねてから健康状態を懸念しておられた先生は、定年を待たずに静養を決意されました。

先生は、昭和38年に香川大学を卒業された後、京都大学大学院経済学研究科に進学、パリ大学法経学部大学院への留学後、専修大学助手、講師、助教授を経て、昭和52年4月に本学部助教授に迎えられ、昭和58年からは社会思想史講座担当の教授として研究と教育に尽力してこられました。

先生は、18世紀の英仏の財政思想から研究を始められ、やがて対象を経済思想と社会思想に拡大して、未開拓の分野に深く鋏を入れた画期的な大著『フランス政治経済思想の生成』を刊行されました。その後も18世紀フランスの制度と思想について独創的な仕事をされ、マルゼルブ研究、フランス貴族商業論争、フランス・プロテスタント史などが書物と論文にまとめられています。また翻訳や文献目録の編纂においても労作を残されました。研究者としてのお仕事の総体は、瞠目すべきものであるとって過言ではありません。

先生は、社会思想史学会、経済学史学会、日本18世紀学会、国際18世紀学会、日仏経済学会、日仏歴史学会において、会員としてまた幹事として活躍されました。本学では昭和59年7月から2年間、京都大学評議員として重責をはたされましたが、各種の委員としても教授としても、温厚な人格と高い見識によって、指導力を発揮されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたる御功勞に感謝と敬意の気持ちを込めて、本記念号を編集いたしました。先生の御友人と御指導を受けられた方々の論文を収録した本号をお贈りできますことは、このうえない慶びであります。

先生のご多幸を心からお祈りいたします。

1995年9月10日

京都大学経済学部長 菊池光造